

2015年9月24日

報道関係各位

田辺三菱製薬株式会社

メディムーンと田辺三菱製薬およびタナベ リサーチ ラボラトリーズ アメリカの がん治療における抗体薬物複合体の共同研究およびライセンス契約締結について

田辺三菱製薬株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：三津家正之、以下「当社」）と、その連結子会社であるタナベ リサーチ ラボラトリーズ アメリカ社（本社：米国サンディエゴ、最高経営責任者（CEO）：櫻井直樹、以下、TRL）ならびに、アストラゼネカ（本社：英国ロンドン、最高経営責任者（CEO）：パスカル・ソリオ）のグローバルバイオ医薬品研究開発部門 MedImmune Limited（以下、メディムーン）は、TRL の有する特異的がん抗体技術と、メディムーンの有する抗がん剤 Pyrrolobenzodiazepine（ピロロベンゾジアゼピン、以下、PBD）を用いた抗体薬物複合体（Antibody-Drug Conjugates、以下、ADCs）に関する共同研究およびライセンス契約を締結したことを、米国において3社共同で発表いたしました。

本契約により、TRL は複数のがん研究プログラムにおいて、独占的にメディムーンの技術を用いた ADCs の共同研究を実施します。当社は本研究成果によって得られた ADCs の臨床開発、製造・販売の全世界における権利を有します。また当社は、メディムーンに対し契約一時金ならびに、研究・開発の進捗に応じて、段階的にマイルストーンを支払います。さらに、全世界での売上額に応じて、一桁台のロイヤリティを支払う可能性があります。なお、当社は、メディムーンに対し、一定の開発段階でその後の米国および欧州における開発販売に関する権利の許諾について協議する権利を付与しています。

TRL の最高経営責任者である櫻井直樹は、次のように述べています。「メディムーンとの ADCs 研究は、TRL の有する特異的がん抗体のさらなる発展にとって非常に喜ばしいことです。」また、TRL の Chief Scientific Officer である Dr. Roland Newman は、「本契約は、TRL の有する先駆的なモノクローナル抗体および二重特異性（バイスペシフィック）抗体と、メディムーンの ADCs 技術を用いた治療法研究の重要な第一歩となるでしょう。世界屈指のバイオ企業との画期的な治療法研究を行える機会に興奮を覚えます。」と述べています。

当社は、アンメットメディカルニーズに応える研究開発に取り組んでおり、優れた技術を有するパートナーとのオープンシェアードビジネスも積極的に進めていきます。本共同研究の成果を、一日でも早く結実し、世界の患者さんの健康に貢献してまいります。

*本資料は、米国で発信したプレスリリースを元に、日本の皆さまのご参考に提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容、解釈は英語が優先します。

以上

◀ 本件に関するお問い合わせ先 ▶
田辺三菱製薬株式会社 広報部
TEL : 06-6205-5211（本社）
TEL : 03-6748-7664（東京本社）

<参考資料>

1. タナベ リサーチ ラボラトリーズ アメリカ社に関して

社名：Tanabe Research Laboratories U.S.A., Inc.

資本金：US\$3,000,000

最高経営責任者：櫻井 直樹

住所：San Diego, California.

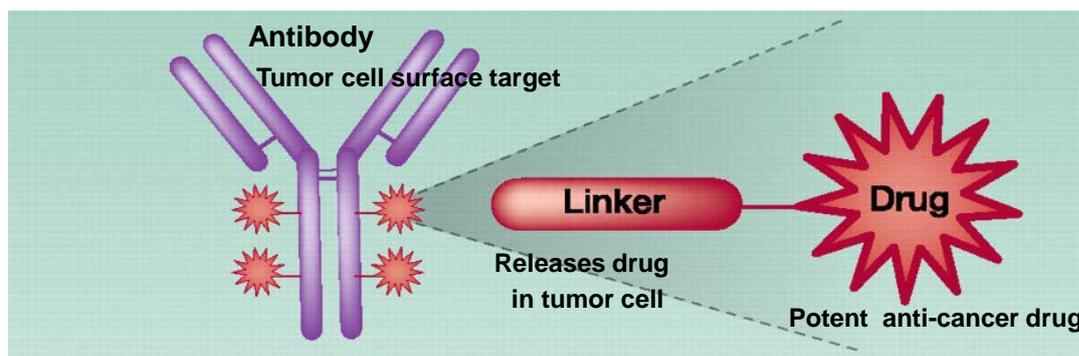
設立：1990年11月

概要：田辺三菱製薬の100%子会社。がんやその他の疾患に関して、アンメットメディカルニーズに対応する抗体や抗体に関するターゲットの研究開発を行う。製薬企業、ベンチャーやアカデミアとの協業、オープンシェアードビジネスを通じて、臨床開発候補品の創製を担う。

2. Antibody-Drug Conjugates (抗体薬物複合体、ADCs) に関して

ADCsとは、特異的な抗体(Antibody)に、新規リンカー(Linker：特殊な化学構造により、抗体と抗がん剤を、適度な強度でつないでいる)を用いて、強力な新規抗がん剤(Drug)を結合させた構造を持ちます(図1)。新世代ミサイル療法とも呼ばれ、強力かつ低副作用のがん治療法になることが期待されています。

図1. Antibody-Drug Conjugates



Teicher B A , and Chari R V Clin Cancer Res 2011;17:6389-6397

3. 二重特異性 (バイスペシフィック) 抗体に関して

2つの抗原結合部位(A, B)が、それぞれ異なる抗原に結合する抗体になります。ガン細胞表面の様々な部位などを選択的に狙える可能性があり、モノクローナル抗体より、がん細胞の多様性克服や、抗体自体の特異性、薬効の向上が期待されています。

図2. 二重特異性抗体

